

平成23年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名		香川県		市町村類型	Ⅳ－２		指定団体等の指定状況		区分		平成23年度(千円)	平成22年度(千円)	区分		平成23年度(千円・%)	平成22年度(千円・%)		
							財政健全化等	×	歳入総額		9,902,947	10,224,720	実質収支比率		11.3	9.9		
							財源超過	×	歳出総額		8,848,111	9,461,951	経常収支比率		76.4	73.7		
市町村名		まんのう町		地方交付税種地	2-2		首都	×	歳入歳出差引		1,054,836	762,769	(※1)		( 82.1 )	( 81.8 )		
							近畿	×	翌年度に繰越すべき財源		296,002	81,657	標準財政規模		6,689,543	6,900,794		
								×	実質収支		758,834	681,112	財政力指数		0.38	0.40		
人口		22年国調(人)	19,087	産業構造 (※5)			中部	×	単年度収支		77,722	-60,694	公債費負担比率		12.4	13.1		
		17年国調(人)	19,896 <th>過疎</th> <th>○</th> <th>積立金</th> <th></th> <th>102,270</th> <th>690,316</th> <th colspan="2">健全化判断比率</th> <th></th> <th></th>				過疎	○	積立金		102,270	690,316	健全化判断比率					
		増減率 (％)	-4.1 <th>区分</th> <th>22年国調</th> <th>17年国調</th> <th>山振</th> <th>○</th> <th>繰上償還金</th> <th></th> <th>-</th> <th>58,783</th> <th colspan="2">実質赤字比率</th> <th>-</th> <th>-</th>	区分	22年国調	17年国調	山振	○	繰上償還金		-	58,783	実質赤字比率		-	-		
住民基本台帳人口		24.03.31(人)	19,855	第1次	1,332	1,554	低開発	×	積立金取崩し額		-	-	連結実質赤字比率		-	-		
		23.03.31(人)	20,046		14.7	15.4	指数表選定	○	実質単年度収支		179,992	688,405	実質公債費比率		9.1	9.9		
		増減率 (％)	-1.0 <th rowspan="2">第2次</th> <td>2,523</td> <td>2,934</td> <td></td> <td></td> <th>基準財政収入額</th> <th></th> <th>1,838,812</th> <th>1,822,863</th> <th colspan="2">将来負担比率</th> <th>0.7</th> <th>40.9</th>	第2次	2,523	2,934			基準財政収入額		1,838,812	1,822,863	将来負担比率		0.7	40.9		
面積 (km <sup>2</sup> )	194.33	27.8	29.0			<th>基準財政需要額</th> <th></th> <th>4,780,008</th> <th>4,864,132</th> <th colspan="2">資金不足比率 (※4)</th> <th></th> <th></th>	基準財政需要額		4,780,008	4,864,132	資金不足比率 (※4)							
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	98 <th rowspan="2">第3次</th> <td>5,213</td> <td>5,602</td> <td></td> <td><th>標準税収入額等</th><th></th><th>2,336,829</th><th>2,314,781</th><th colspan="2"></th><th></th><th></th></td>	第3次	5,213	5,602		<th>標準税収入額等</th> <th></th> <th>2,336,829</th> <th>2,314,781</th> <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>	標準税収入額等		2,336,829	2,314,781								
世帯数 (世帯)	6,355		57.5	55.3		<th>経常経費充当一般財源等</th> <th></th> <th>5,117,079</th> <th>5,118,801</th> <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>	経常経費充当一般財源等		5,117,079	5,118,801								
職員の状況									歳入一般財源等		7,790,756	8,180,203						
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高		9,837,057	9,933,107						
	市区町村長	1	7,900 <th>一般職員</th> <td>166</td> <td>537,674</td> <td>3,239<th>うち公的資金</th><th></th><th>7,536,436</th><th>7,580,026</th><th colspan="2"></th><th></th><th></th></td>		一般職員	166	537,674	3,239 <th>うち公的資金</th> <th></th> <th>7,536,436</th> <th>7,580,026</th> <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>	うち公的資金		7,536,436	7,580,026						
	副市区町村長	1	6,100 <th>うち消防職員</th> <td>-</td> <td>-</td> <td>-<th>債務負担行為額(支出予定額)</th><th></th><th>9,572,026</th><th>9,709,155</th><th colspan="2"></th><th></th><th></th></td>		うち消防職員	-	-	- <th>債務負担行為額(支出予定額)</th> <th></th> <th>9,572,026</th> <th>9,709,155</th> <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>	債務負担行為額(支出予定額)		9,572,026	9,709,155						
	教育長	1	5,750 <th>うち技能労務職員</th> <td>18</td> <td>49,014</td> <td>2,723<th>収益事業収入</th><th></th><td>9,130</td><td>9,125<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td></td>		うち技能労務職員	18	49,014	2,723 <th>収益事業収入</th> <th></th> <td>9,130</td> <td>9,125<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td>	収益事業収入		9,130	9,125 <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>						
	議会議長	1	3,350 <th>教育公務員</th> <td>22</td> <td>66,338</td> <td>3,015<th>土地開発基金現在高</th><th></th><td>268,744</td><td>268,726<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td></td>		教育公務員	22	66,338	3,015 <th>土地開発基金現在高</th> <th></th> <td>268,744</td> <td>268,726<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td>	土地開発基金現在高		268,744	268,726 <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>						
	議会副議長	1	3,050 <th>臨時職員</th> <td>-</td> <td>-</td> <td>-<th rowspan="3">積立金現在高</th><th>財政調整基金</th><th></th><td>3,793,593<td>3,351,323<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td></td></td>		臨時職員	-	-	- <th rowspan="3">積立金現在高</th> <th>財政調整基金</th> <th></th> <td>3,793,593<td>3,351,323<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td></td>	積立金現在高	財政調整基金		3,793,593 <td>3,351,323<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td>	3,351,323 <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>					
	議会議員	14	2,900 <th>合計</th> <td>188</td> <td>604,012</td> <td>3,213<th>減債基金</th><th></th><td>226,482</td><td>226,247<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td></td>		合計	188	604,012	3,213 <th>減債基金</th> <th></th> <td>226,482</td> <td>226,247<th colspan="2"></th><th></th><th></th></td>		減債基金		226,482	226,247 <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>					
					ラスバイレス指数(※6)	106.2	( 98.1 )	その他特定目的基金			711,382	693,353 <th colspan="2"></th> <th></th> <th></th>						
	一般会計等の一覧		事業会計の一覧				公営企業(法適)の一覧				公営企業(法非適)の一覧				関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧	
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)				
(1)	一般会計	(3)	国民健康保険特別会計	(6)	水道事業会計	(7)	簡易水道特別会計	(11)	仲多度南部消防組合	(19)	勘ことなみ振興公社							
(2)	診療所特別会計	(4)	介護保険特別会計			(8)	下水道特別会計	(12)	香川県市町総合事務組合	(20)	南仲南振興公社							
		(5)	後期高齢者医療特別会計			(9)	農業集落排水特別会計	(13)	香川県後期高齢者医療広域連合	(21)	榊グリーンパークまんのう							
						(10)	浄化槽整備推進事業特別会計	(14)	香川県中部広域競艇事業組合	(22)	まんのう町土地開発公社							
								(15)	中讃広域行政事務組合									
								(16)	まんのう町外二ヶ市町(十郷地区)山林組合									
								(17)	まんのう町外三ヶ市町(七箇地区)山林組合									
								(18)	まんのう町外三ヶ市町山林組合									

(注釈) ※1：経常収支比率の( )内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。  
※6：ラスバイレス指数の( )内の数値は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。

## (1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	1,922,609	19.4	1,922,609	30.9	普通税	1,921,998	100.0	-	
地方譲与税	116,740	1.2	116,740	1.9	法定普通税	1,921,998	100.0	-	
利子割交付金	8,070	0.1	8,070	0.1	市町村民税	747,027	38.9	-	
配当割交付金	5,171	0.1	5,171	0.1	個人均等割	27,189	1.4	-	
株式等譲渡所得割交付金	973	0.0	973	0.0	所得割	637,748	33.2	-	
地方消費税交付金	161,776	1.6	161,776	2.6	法人均等割	37,306	1.9	-	
ゴルフ場利用税交付金	60,484	0.6	60,484	1.0	法人税割	44,784	2.3	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	1,008,512	52.5	-	
自動車取得税交付金	27,496	0.3	27,496	0.4	うち純固定資産税	1,006,218	52.3	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	55,555	2.9	-	
地方特例交付金	31,982	0.3	31,982	0.5	市町村たばこ税	110,904	5.8	-	
児童手当及び子ども手当特例交付金	13,231	0.1	13,231	0.2	鉱産税	-	-	-	
減収補填特例交付金	18,751	0.2	18,751	0.3	特別土地保有税	-	-	-	
地方交付税	4,268,361	43.1	3,888,524	62.4	法定外普通税	-	-	-	
普通交付税	3,888,524	39.3	3,888,524	62.4	目的税	611	0.0	-	
特別交付税	379,824	3.8	-	-	法定目的税	611	0.0	-	
震災復興特別交付税	13	0.0	-	-	入湯税	611	0.0	-	
（一般財源計）	6,603,662	66.7	6,223,825	99.9	事業所税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	4,539	0.0	4,539	0.1	都市計画税	-	-	-	
分担金・負担金	77,450	0.8	-	-	水利地益税等	-	-	-	
使用料	180,842	1.8	2,244	0.0	法定外目的税	-	-	-	
手数料	61,516	0.6	-	-	旧法による税	-	-	-	
国庫支出金	714,858	7.2	-	-	合計	1,922,609	100.0	-	
国有提供交付金（特別区財調交付金）	-	-	-	-					
都道府県支出金	666,670	6.7	-	-	区分	平成23年度	平成22年度		
財産収入	207,025	2.1	-	-	徴収率	97.5	91.1	97.4	91.1
寄附金	1,335	0.0	-	-	現・計	98.2	93.7	98.0	93.8
繰入金	9,856	0.1	-	-	(%)	96.7	88.3	96.7	88.5
繰越金	422,769	4.3	-	-	市町村民税				
諸収入	212,335	2.1	549	0.0	純固定資産税				
地方債	740,090	7.5	-	-					
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	464,190	4.7	-	-					
歳入合計	9,902,947	100.0	6,231,157	100.0					

（注釈）  
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、  
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況（単位 千円・％）					
目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額（A）	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	161,585	1.8	-	-	161,585
総務費	1,128,887	12.8	13,533	-	984,173
民生費	2,461,429	27.8	1,764	-	1,605,967
衛生費	818,937	9.3	85,984	-	593,851
労働費	52,481	0.6	5,994	-	9,033
農林水産業費	726,986	8.2	346,799	-	495,484
商工費	225,144	2.5	20,000	-	92,479
土木費	562,210	6.4	356,079	-	373,491
消防費	454,341	5.1	14,879	-	430,799
教育費	1,217,292	13.8	294,618	-	977,737
災害復旧費	57,960	0.7	-	-	35,359
公債費	973,649	11.0	-	-	968,752
諸支出費	7,210	0.1	-	-	7,210
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
歳出合計	8,848,111	100.0	1,139,650	-	6,735,920
性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	3,751,911	42.4	3,006,980	2,990,229	44.7
人件費	1,751,857	19.8	1,660,830	1,660,810	24.8
うち職員給	1,073,623	12.1	989,140	-	-
扶助費	1,026,405	11.6	377,398	360,667	5.4
公債費	973,649	11.0	968,752	968,752	14.5
元利償還金	973,649	11.0	968,752	968,752	14.5
うち元金	836,140	9.4	831,247	831,247	12.4
うち利子	137,509	1.6	137,505	137,505	2.1
一時借入金・利子	-	-	-	-	-
その他の経費	3,898,590	44.1	3,044,330	2,126,850	31.8
物件費	1,316,104	14.9	917,875	518,616	7.7
維持補修費	138,431	1.6	132,480	132,480	2.0
補助費等	1,195,829	13.5	915,704	695,820	10.4
うち一部事務組合負担金	610,843	6.9	556,795	549,855	8.2
繰出金	1,108,036	12.5	981,344	779,426	11.6
積立金	130,390	1.5	96,419	-	-
投資・出資金・貸付金	9,800	0.1	508	508	0.0
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	1,197,610	13.5	684,610	-	-
うち人件費	83,255	0.9	83,255	-	-
普通建設事業費	1,139,650	12.9	649,251	-	-
うち補助	236,576	2.7	65,729	-	-
うち単独	869,138	9.8	570,115	-	-
災害復旧事業費	57,960	0.7	35,359	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	8,848,111	100.0	6,735,920	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況（単位：百万円）

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	9,827	8,775	1,052	756	-	9,837	
2 診療所特別会計	122	90	32	32	-	-	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							実質赤字額
計 一般会計等（純計）	9,949	8,865	1,084	788		9,837	-

※一般会計等（純計）は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況（単位：百万円）

会計名	総収益（歳入）	総費用（歳出）	純損益（形式収支）	資金剰余額／不足額（実質収支）	他会計等からの繰入金	企業債（地方債）現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	資金不足比率	備考
1 国民健康保険特別会計	2,435	2,401	34	34	191	-	-	-	
2 介護保険特別会計	2,154	2,118	36	35	285	-	-	-	
3 後期高齢者医療特別会計	258	245	13	13	91	-	-	-	
4 水道事業会計	700	117	583	583	-	1,135	185	-	法適用企業
5 簡易水道特別会計	253	238	16	16	83	1,250	788	-	法非適用企業
6 下水道特別会計	175	171	4	4	90	1,479	1,209	-	法非適用企業
7 農業集落排水特別会計	29	27	2	2	22	237	237	-	法非適用企業
8 浄化槽整備推進事業特別会計	55	55	-	-	30	326	326	-	法非適用企業
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									連結実質赤字額
計 公営企業会計等				686		4,427	2,744		-

関係する一部事務組合等の財政状況（単位：百万円）

一部事務組合等名	総収益（歳入）	総費用（歳出）	純損益（形式収支）	資金剰余額／不足額（実質収支）	他会計等からの繰入金	企業債（地方債）現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
1 仲多度南部消防組合	570	564	5	5	6	335	226	
2 香川県市町総合事務組合	5,539	5,346	193	193	94	-	-	
3 香川県後期高齢者医療広域連合	123,602	123,367	235	235	858	-	-	
4 香川県中部広域競艇事業組合	1,939	1,938	1	1	-	-	-	
5 中讃広域行政事務組合	4,284	4,187	97	97	66	1,566	44	
6 まんのう町外ニッ市町（十郷地区）山林組合	9	7	1	1	1	-	-	
7 まんのう町外三ヶ市町（七箇地区）山林組合	9	4	5	5	-	-	-	
8 まんのう町外三ヶ市町山林組合	1	0	0	0	-	-	-	
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
計 一部事務組合等				537		1,560	292	

公債費負担の状況

実質公債費比率（千円・％）					将来負担の状況				
区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比	区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比
元利償還金	1,016,072	973,486	973,649	16.3	元利償還額	9,998,101	9,933,107	9,837,057	165.1
準 減債基金積立不足算定額	-	-	-	-	一般会計等に係る地方債の現在高	53,476	158,248	39,955	0.7
元 満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	債務負担行為に基づく支出予定額	3,102,936	2,946,163	2,743,755	46.0
利 公営企業債の元利償還金に対する繰入金	225,507	224,393	216,165	3.6	公営企業債等繰入見込額	402,440	335,576	292,532	4.9
還 組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	85,625	85,565	72,897	1.2	組合等負担等見込額	2,571,921	2,508,653	2,442,790	41.0
金 債務負担行為に基づく支出額（公債費に準ずるもの）	14,301	11,665	10,673	0.2	退職手当負担見込額	-	-	-	-
一 一時借入金の利子	-	-	-	-	設立法人等の負債額等負担見込額	-	-	-	-
合 計	(A) 1,341,505	1,295,109	1,273,384		連結実質赤字額	-	-	-	-
内 訳	平成21年度	平成22年度	平成23年度	分母比	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-
PFI事業に係るもの	-	-	-	-	合計	(E) 16,128,874	15,881,747	15,356,089	
いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-	充当可能基金	3,875,601	4,826,230	5,346,830	89.7
国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-	充当可能特定繰入	59,905	169,706	53,489	0.9
地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-	基準財政需要額算入見込額	7,563,598	8,378,926	9,913,749	166.4
社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-	合計	(F) 11,499,104	13,374,862	15,314,068	
損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-	将来負担比率（(E)-(F))/((C)-(D))×100	80.3	40.9	0.7	
引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-	充当可能財源等	3,875,601	4,826,230	5,346,830	89.7
その他上記に準ずるもの	-	-	-	-	充当可能特定繰入	59,905	169,706	53,489	0.9
利子補給に係るもの	14,301	11,665	10,673	0.2	基準財政需要額算入見込額	7,563,598	8,378,926	9,913,749	166.4
特定財源の額	(B) 12,826	16,861	4,897		合計	(F) 11,499,104	13,374,862	15,314,068	
標準財政規模	(C) 6,497,471	6,900,794	6,689,543		将来負担比率（(E)-(F))/((C)-(D))×100	80.3	40.9	0.7	
算入公債費等の額	(D) 735,633	777,209	730,952		健全化判断比率	平成23年度	早期健全化基準	財政再生基準	
	(C)-(D) 5,761,838	6,123,585	5,958,591		実質赤字比率	-	14.16	20.00	
実質公債費比率	(単年度) 10.3	8.2	9.0		連結実質赤字比率	-	19.16	30.00	
((A)-((B)+(D)))/((C)-(D))×100	(3ヵ年平均) 11.2	9.9	9.1		実質公債費比率	9.1	25.0	35.0	
					将来負担比率	0.7	350.0		

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況（単位：百万円）

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
1 財ことなみ振興公社	▲ 9	109	102	5	-	-	-	-	
2 南仲南振興公社	6	60	15	-	-	-	-	-	
3 櫛グリーンパークまんのう	▲ 2	46	8	-	-	-	-	-	
4 まんのう町土地開発公社	0	23	15	-	-	-	-	-	
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									
61									
62									
63									
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72									
73									
74									
75									
76									
77									
78									
79									
80									
81									
82									
計 地方公社・第三セクター等									

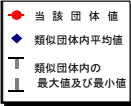
※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	19,855人	(H24.3.31現在)
面積	194.33km <sup>2</sup>	
総人口	9,902,947千円	
総収入	8,848,111千円	
総支出	758,834千円	
実質収支	6,689,543千円	
標準財政規模	9,837,057千円	
地方債現在高		

実質赤字比率	-%
連結実質赤字比率	-%
実質公債費比率	9.1%
将来負担比率	0.7%
市町村類型	H19 IV-2 H20 IV-2 H21 IV-2
(年度毎)	H22 IV-2 H23 IV-2



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

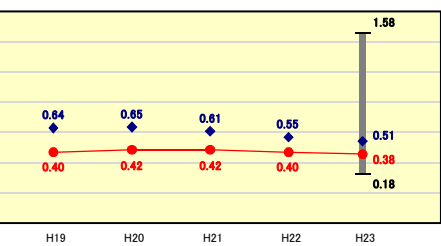
※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

財政力

財政力指数 [0.38]



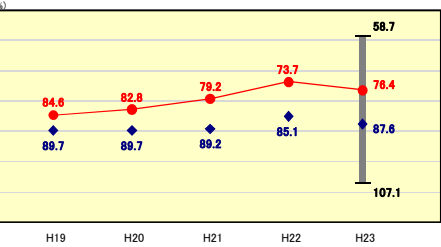
類似団体内順位 48/82 全国平均 0.51 香川県平均 0.56

**財政力指数の分析欄**

平成18年3月20日の市町村合併後、0.40前後で推移しているが、人口減少や少子高齢化に加え、町内に基盤となる産業がないこと等から、財政基盤が脆弱であり、類似団体平均をかなり下回っている。町税の収納率向上や新たな自主財源の創出等により歳入の確保に努め、徹底した事務事業の見直し・アウトソーシング等による行財政改革を推進するとともに、選択と集中による施策の重点化により効率的・効果的な行財政運営に努めることにより、財政の健全化を図る。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [76.4%]



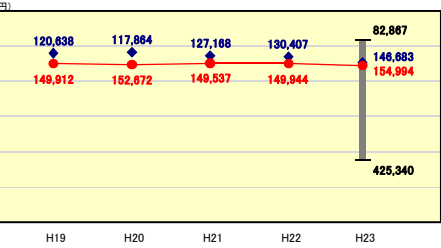
類似団体内順位 3/82 全国平均 90.3 香川県平均 85.5

**経常収支比率の分析欄**

類似団体平均を下回ってはいるが、前年度と比較して、物件費、維持補修費等経常的な経費の増加と地方交付税をはじめ各種交付金等経常的な一般財源収入の減少により、2.7ポイント上昇した。また、依然として70%以上の高い比率で推移しており、財政構造の硬直化が懸念される。今後も適正な定員管理に努め、新規採用の抑制、手当の見直し等により人件費の削減を図るなど行財政改革への取組を通じて、経常的経費の削減を図る。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [154,994円]



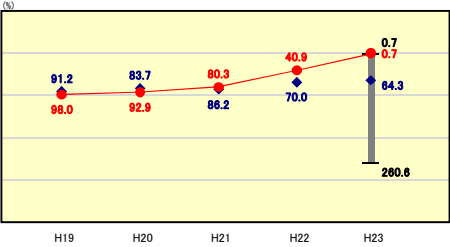
類似団体内順位 58/82 全国平均 119,477 香川県平均 113,725

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄**

市町村合併に伴う人口規模の増加が図られたため類似団体平均より高くなっており、相対的に非効率な組織の状況が続いている。今後、人口規模に沿った職員数の適正化を図るとともにPFI手法の導入、公共施設の包括管理の実施等の行財政改革に努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [0.7%]



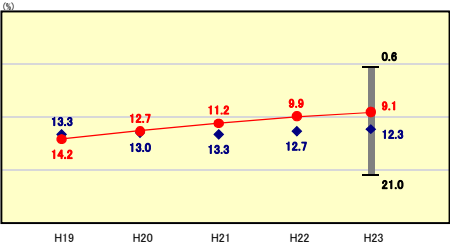
類似団体内順位 16/82 全国平均 69.2 香川県平均 64.1

**将来負担比率の分析欄**

前年度と比較して40.2ポイント改善され、類似団体平均を大きく下回った。主な要因としては、地方債残高の減、財政調整基金の積立による充当可能基金の増額等があげられる。しかしながら、今後、中学校等の改築工事、幼保一元化による施設整備等大規模事業の実施が予定されているため、地方債残高の上昇が予想されることから、経常的経費の削減を中心とする行財政改革を進めるとともに、安易に地方債に頼ることのないように努めることにより、財政の健全化を図る。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [9.1%]



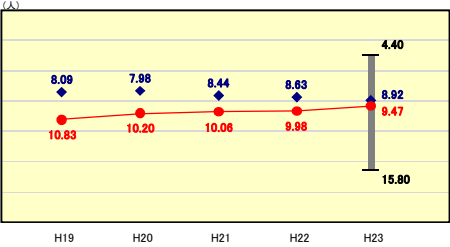
類似団体内順位 19/82 全国平均 9.9 香川県平均 11.1

**実質公債費比率の分析欄**

類似団体平均よりも下回っており、前年度と比較して0.8ポイント改善された。今後も選択と集中により、充当事業の厳選して新規地方債発行を抑制するとともに、合併特例債、辺地・過疎債等の交付税措置される有利な地方債の活用を図り、実質公債費比率の抑制に努める。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [9.47人]



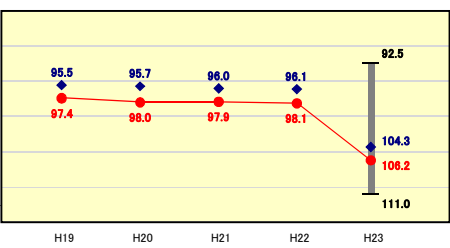
類似団体内順位 51/82 全国平均 7.17 香川県平均 7.26

**人口千人当たり職員数の分析欄**

市町村合併により、一時的に職員数が類似団体平均を上回る結果となっているが、集中改革プランの着実な実施等により、職員数は減少している。引き続き勤奨制度を活用した退職者の拡大と新規採用者の抑制により、職員数の削減に努めるとともに、行政評価制度による事務事業の見直し等により組織の合理化を図る。

給与水準（国との比較）

ラスパイレス指数 [106.2]



類似団体内順位 60/82 全国市平均 106.9 全国町村平均 103.3

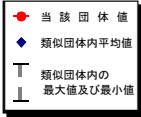
**ラスパイレス指数の分析欄**

類似団体平均よりも高くなっているが、勤奨制度の奨励、新規採用の抑制等により、職員数は減少傾向に転じつつあるため、引き続き定員の適正化を図るとともに、人件費の削減に努める。

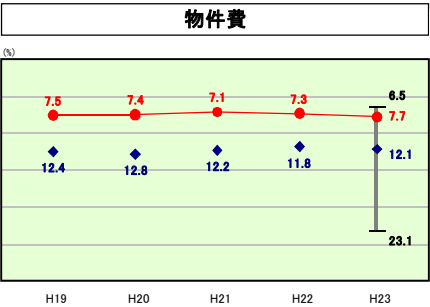
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

経常収支比率の分析

人	口	19,855	人(H24.3.31現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%
面	積	194.33	km <sup>2</sup>	連	結	実	質	赤	字	比	率
入	総	9,902,947	千円	実	質	公	債	費	比	率	9.1%
出	総	8,848,111	千円	得	来	負	担	比	率	0.7%	%
実	質	収	支	758,834	千円	市	町	村	類	型	
標準	財政	規模	6,689,543	千円	(	年	度	毎	)	H19	IV-2
地方	債	現在	9,837,057	千円						H20	IV-2
										H21	IV-2
										H22	IV-2
										H23	IV-2



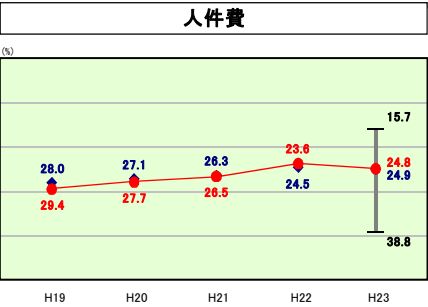
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



類似団体内順位 5/82 全国平均 13.1 香川県平均 11.4

**物件費の分析欄**

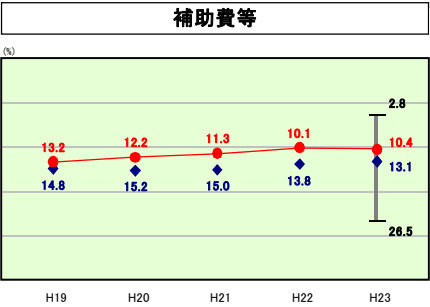
物件費に係る経常収支比率は、類似団体平均を下回っている。今後も公共施設の包括管理委託や、〇A機器の包括リース契約等の事務事業の見直しを図り、物件費の削減に努める。



類似団体内順位 41/82 全国平均 25.4 香川県平均 26.0

**人件費の分析欄**

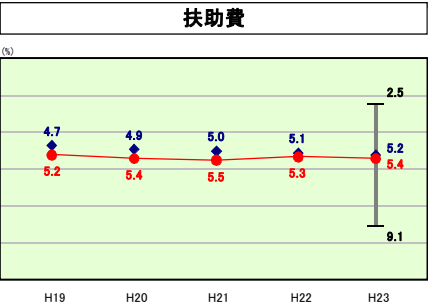
人件費に係る経常収支比率は、類似団体平均とほぼ同水準で推移している。今後も適正な定員管理に努め、新規採用の抑制、手当の見直し等により人件費の削減に努める。



類似団体内順位 22/82 全国平均 10.1 香川県平均 9.8

**補助費等の分析欄**

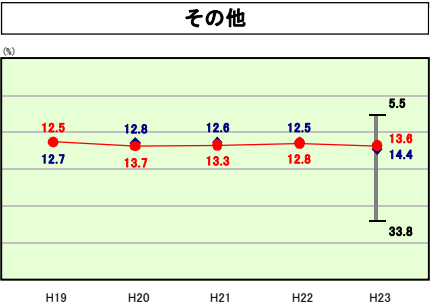
補助費等に係る経常収支比率は、類似団体平均を下回っており、減少傾向にある。今後も単独補助・負担金の整理合理化、優遇措置の見直しを図り、補助費等の抑制に努める。



類似団体内順位 48/82 全国平均 10.5 香川県平均 9.5

**扶助費の分析欄**

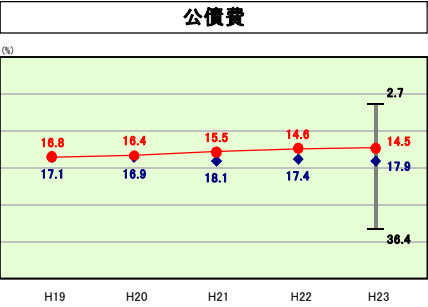
扶助費に係る経常収支比率は、類似団体平均を僅かに上回っているが、ほぼ同水準で推移している。主な要因としては、障害者福祉費の負担増等があげられるが、今後、少子高齢化の進展に対応しつつ、老人福祉、障害者福祉及び児童福祉等の動向に注視しなければならない。



類似団体内順位 41/82 全国平均 12.2 香川県平均 12.1

**その他の分析欄**

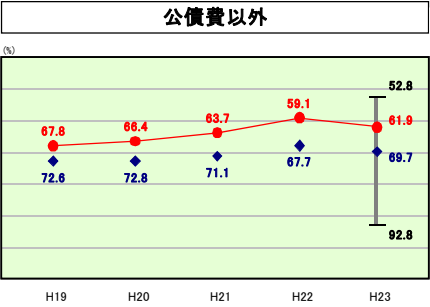
その他に係る経常収支比率は、類似団体平均を僅かに下回ったが、ほぼ同水準で推移している。主な要因としては、特別会計繰出金の増加があげられる。特に高齢化に伴う介護保険事業特別会計や後期高齢者医療特別会計への繰出金が増加しており、今後の高齢者医療の動向に注視しなければならない。



類似団体内順位 31/82 全国平均 19.0 香川県平均 16.7

**公債費の分析欄**

公債費に係る経常収支比率は、類似団体平均を下回っており、年々減少傾向にある。今後も選択と集中により、充当事業を厳選して新規地方債発行を抑制するとともに、合併特例債、辺地・過疎債等の交付税措置される有利な地方債の活用を図り、安易に地方債に頼ることのないよう財政運営に努める。



類似団体内順位 9/82 全国平均 71.3 香川県平均 68.8

**公債費以外の分析欄**

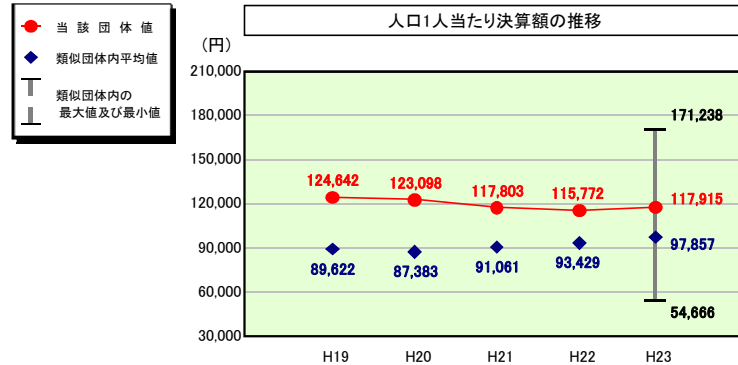
公債費以外に係る経常収支比率は、類似団体平均を下回っている。今後も、人口規模に沿った職員数の適正化を図るとともにPFI手法の導入、公共施設の包括管理の実施等事務事業の見直しを図り、歳出削減に努める。

## (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

香川県まんのう町

### 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



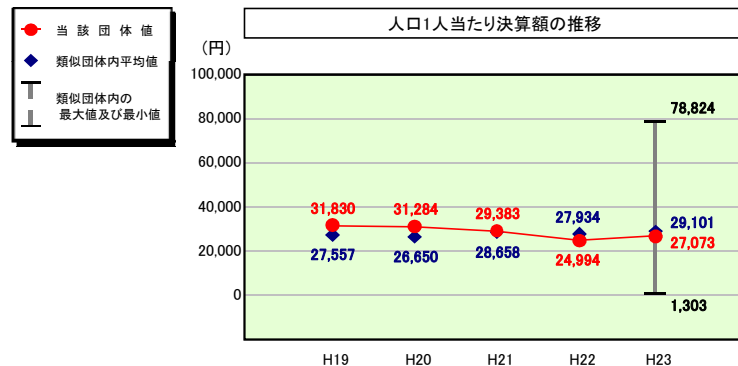
### 人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	1,751,857	88,233	81,300	8.5
賃金 (物件費)	286,392	14,424	7,732	86.5
一部事務組合負担金 (補助費等)	328,385	16,539	12,907	28.1
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	-	-	505	-
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	103,562	5,216	3,513	48.5
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	83,255	4,193	1,472	184.9
▲退職金	▲ 212,239	▲ 10,689	▲ 9,573	11.7
合計	2,341,212	117,915	97,857	20.5

### 参考

	当該団体	類似団体平均	対比 (差引)
人口1,000人当たり職員数 (人)	9.47	8.92	0.55
ラスパイレズ指数	106.2	104.3	1.9

### 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

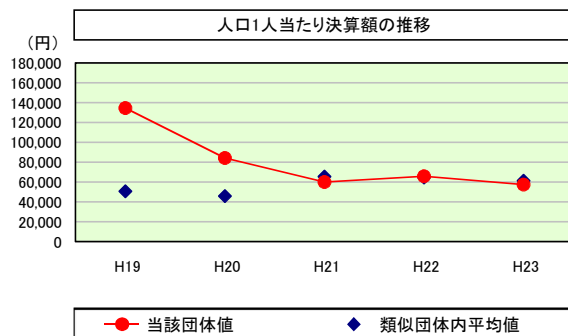


### 公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	973,649	49,038	54,945	▲ 10.8
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	10	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	216,165	10,887	16,386	▲ 33.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	72,897	3,671	4,210	▲ 12.8
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	10,673	538	1,523	▲ 64.7
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	9	-
▲特定財源の額	▲ 4,897	▲ 247	▲ 3,422	▲ 92.8
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 730,952	▲ 36,815	▲ 44,560	▲ 17.4
合計	537,535	27,073	29,101	▲ 7.0

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

### (参考) 普通建設事業費の分析



### 普通建設事業費

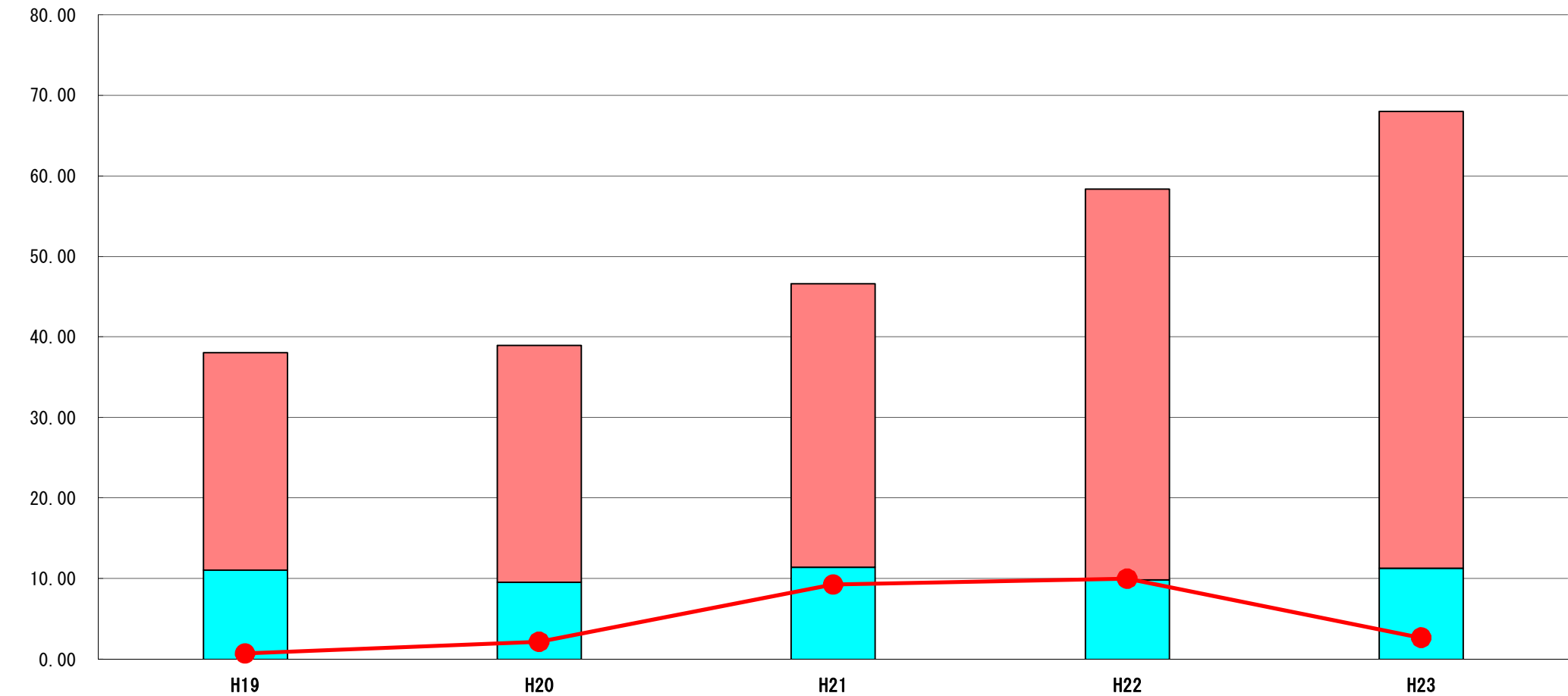
	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H19	2,744,149	134,524	97.3	50,788	▲ 11.5	108.8
うち単独分	665,965	32,647	▲ 22.0	26,521	▲ 24.2	2.2
H20	1,711,690	84,320	▲ 37.3	45,820	▲ 9.8	▲ 27.5
うち単独分	905,625	44,612	36.6	22,743	▲ 14.2	50.8
H21	1,213,082	60,104	▲ 28.7	65,529	43.0	▲ 71.7
うち単独分	834,955	41,369	▲ 7.3	32,858	44.5	▲ 51.8
H22	1,319,020	65,800	9.5	64,717	▲ 1.2	10.7
うち単独分	953,236	47,552	14.9	31,931	▲ 2.8	17.7
H23	1,139,650	57,399	▲ 12.8	61,557	▲ 4.9	▲ 7.9
うち単独分	869,138	43,774	▲ 7.9	32,497	1.8	▲ 9.7
過去5年間平均	1,625,518	80,429	5.6	57,682	3.1	2.5
うち単独分	845,784	41,991	2.9	29,310	1.0	1.9

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成23年度

香川県まんのう町

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	H19	H20	H21	H22	H23
<div></div> 財政調整基金残高		27.06	29.41	35.26	48.56	56.71
<div></div> 実質収支額		11.06	9.58	11.42	9.87	11.34
<div></div> 実質単年度収支		0.74	2.19	9.28	9.98	2.69

分析欄

実質単年度収支は黒字を維持しているが、その比率は前年度と比較して減少している。今後、普通交付税は国の財政状況の悪化や人口減少の影響により、下降気味に推移すると思われる、さらに合併団体であるため、合併特例措置が終了する平成33年度には約10億円の減額となり、財政調整基金を始めとする各種基金の運用による財政運営が求められてくることから、実質単年度収支が赤字となる可能性もあり、注視していく必要がある。

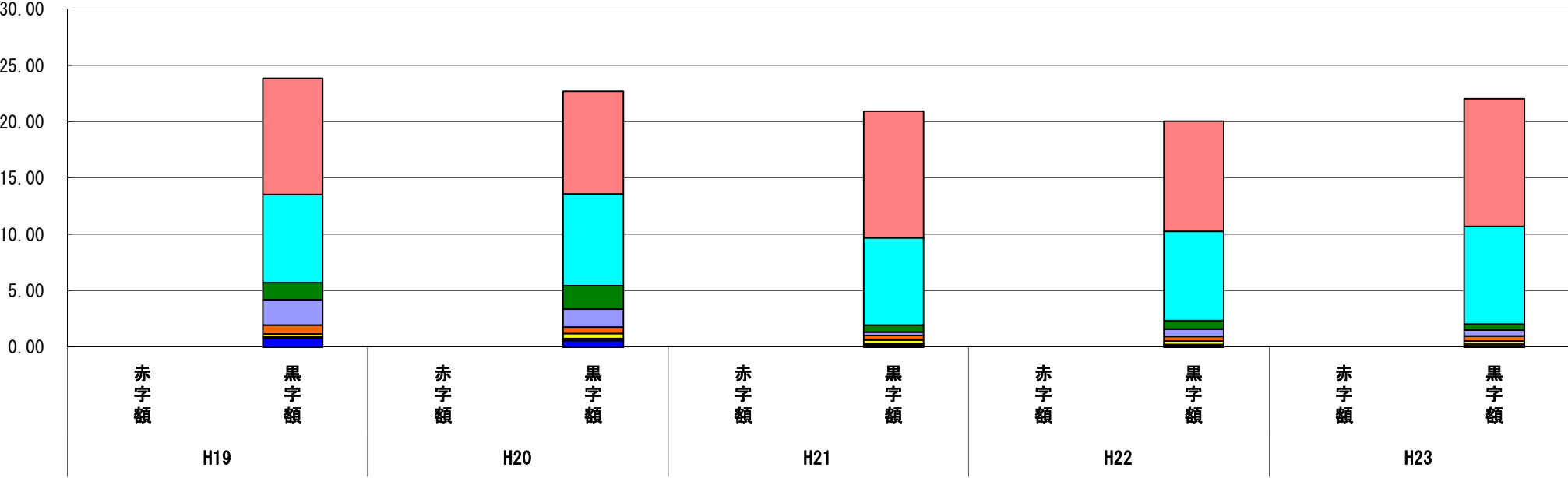


(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成23年度

香川県まんのう町

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		H19	H20	H21	H22	H23
会計						
一般会計		10.31	9.14	11.24	9.79	11.30
水道事業会計		7.82	8.13	7.73	7.91	8.71
介護保険特別会計		1.52	2.05	0.62	0.75	0.52
国民健康保険特別会計		2.25	1.60	0.31	0.66	0.50
診療所特別会計		0.82	0.59	0.40	0.40	0.48
簡易水道特別会計		0.23	0.46	0.31	0.30	0.23
後期高齢者医療特別会計		-	0.13	0.14	0.16	0.19
下水道特別会計		0.16	0.05	0.08	0.05	0.06
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.75	0.56	0.09	0.03	0.04

分析欄

連結実質赤字比率については、全会計において黒字となり赤字比率はない。今後も、各特別会計においては、独立採算の原則を念頭に、安易に一般会計からの繰り入れに依存することなく、長期的な経営視点に立ってなお一層の経費の削減・合理化や使用料等の改定も含めた積極的な収入確保に努める。また一般会計においては、実質収支比率同様今後には、地方交付税の減少等一般財源の確保が厳しい状況となると思われ、財政調整基金を始めとする各種基金の運用による財政運営が求められることから、注視していく必要がある。

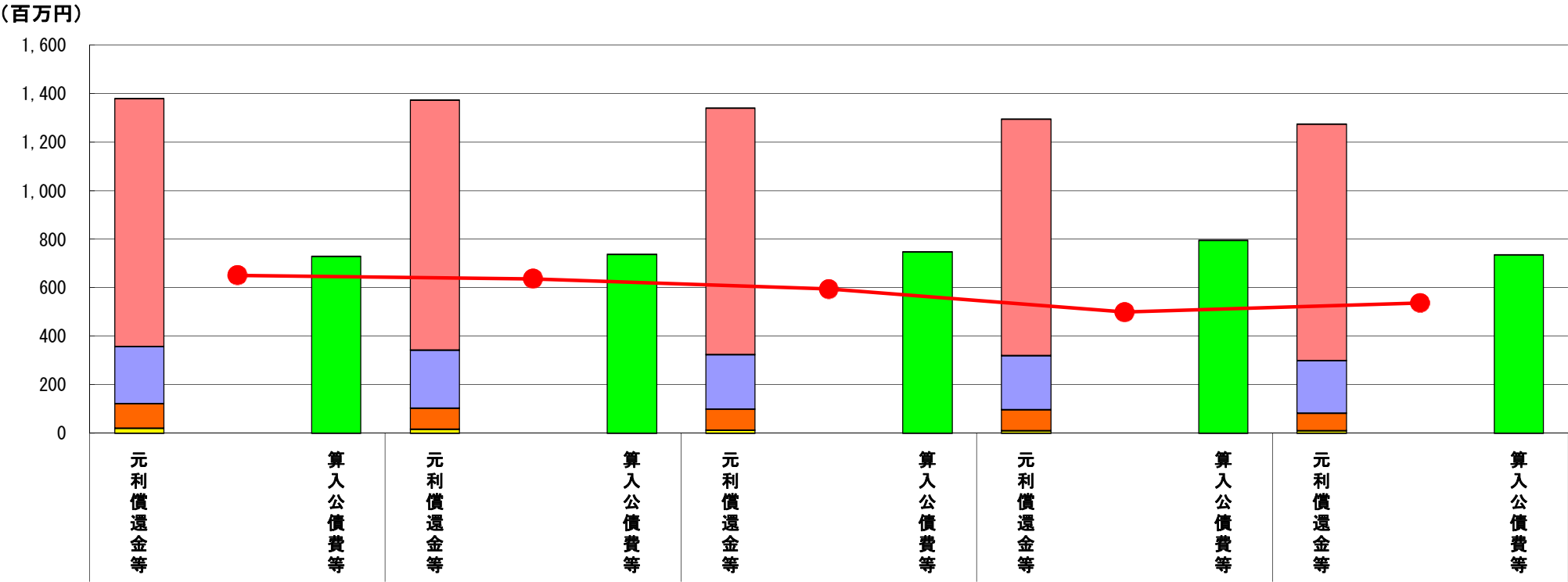
※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。



(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

香川県まんのう町



(百万円)

分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
元利償還金等 (A)	元利償還金		1,022	1,031	1,016	973	974
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		236	239	226	224	216
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		101	86	86	86	73
	債務負担行為に基づく支出額		22	18	14	12	11
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		730	738	748	796	737
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		651	636	594	499	537

分析欄

実質公債費比率は3カ年平均9.1%で年々減少傾向にある。主な要因は、元利償還金の減少と算入公債費等の増加によるものである。今後も選択と集中により、充当事業を厳選して新規地方債発行を抑制するとともに、合併特例債、辺地・過疎債等の交付税措置される有利な地方債の活用を図り、安易に地方債に頼ることのないよう財政運営に努める。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

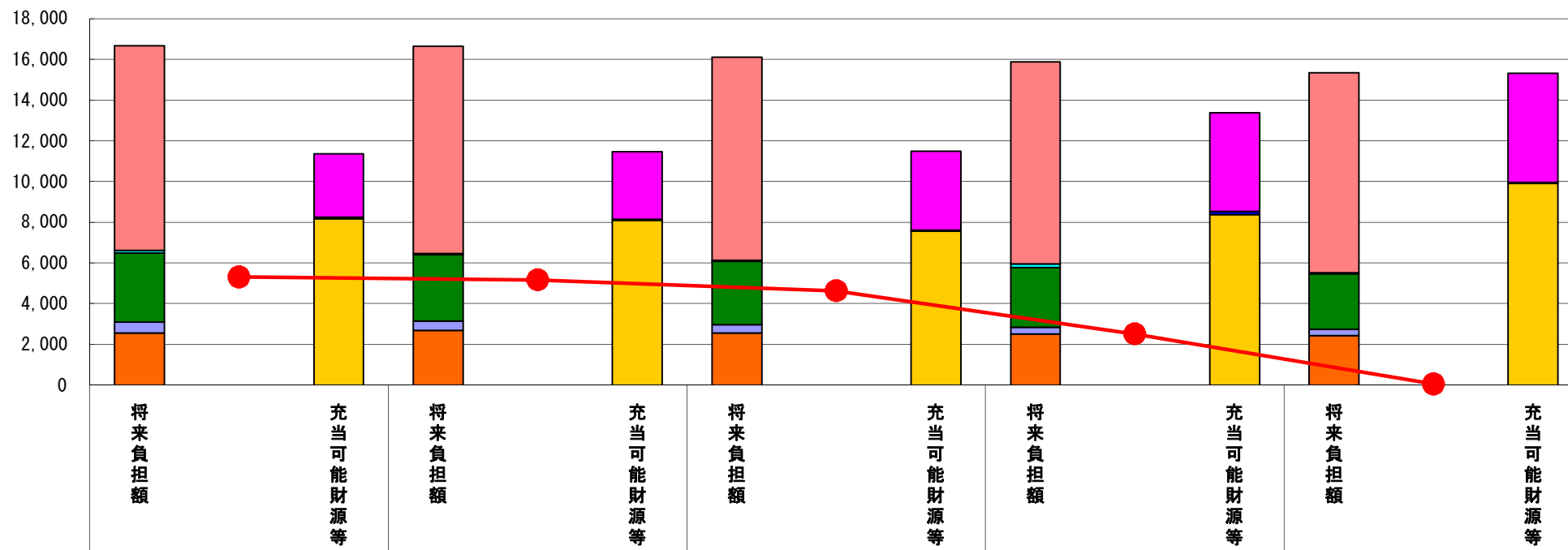
※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

## (8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

（百万円）

平成23年度

香川県まんのう町



（百万円）

分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		10,068	10,166	9,998	9,933	9,837
	債務負担行為に基づく支出予定額		113	62	53	158	40
	公営企業債等繰入見込額		3,402	3,273	3,103	2,946	2,744
	組合等負担等見込額		543	460	402	336	293
	退職手当負担見込額		2,559	2,686	2,572	2,509	2,443
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		3,117	3,318	3,876	4,826	5,347
	充当可能特定歳入		85	50	60	170	53
	基準財政需要額算入見込額		8,173	8,111	7,564	8,379	9,914
(A) - (B)		将来負担比率の分子	5,309	5,168	4,630	2,507	42

### 分析欄

将来負担比率は、0.7%で年々減少傾向にある。主な要因は、一般会計の地方債現在高の減少と充当可能基金の増加である。今後、中学校改築工事、幼保一元化による施設整備等大規模事業の実施が予定されているため、地方債現在高の上昇が予想されることから、経常的経費の削減を中心とする行財政改革を進めるとともに、決算剰余金の活用等により基金の計画的な積立に努める。また、地方債の発行に当たっては、後年度の過重な負担とならないよう、プライマリーバランスを堅持しながら、適債事業への計画的・効果的な活用を図ることにより将来負担額の抑制に努める。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。